

ねじればね

創立15周年大会記念号

— 自然 洋 子 号 —

昭和35年10月15日発行

編輯者 後藤 光男
大阪府茨木市高石町北4-7

近畿甲虫同好会

兵庫県神戸市東灘区御影町天神山44
大倉正文方

はじめに

終戦の年、昭和20年11月3日に大倉・林・後藤の3人で何か会報を出そうと相談してから、早いもので満15年がたちました。あたかも、日本昆虫学会が大阪で開催されることでもあり、北から南からお国自慢の虫談に花をそえるべく、いろんな計画をいたしました。

その一つとして、甲虫屋の方々に現在御所有の標本について、下記のアンケートをお願いしました。幸い皆様の御協力を得ましたので、ここに到着順にご披露申し上げます。ただ、記念大会・会報の巻ノ3号の発行・展覧会の開催時の諸準備に追われ、全会員にお問合せすることができませんでしたことを深くお詫びいたします。

アンケートの内容

- (1) 自身で採集された最も古い標本（当時の年代も付記して下さい）。
- (2) 所蔵中の最も古い標本、又は診らしい方・著名な方の採集された標本。
- (3) 最も愛着をもっておりられる標本、又は最も珍しい標本、或は診談・奇談やエピソードのある標本。

○ 林 匡 夫 氏 （大阪市）

一寸調べましたがなかなかはっきり分らず、またあとから出てくるかしれません。とりあえず手許にあるのを報告します。もう少し古いのは約三十箱、別に吹田の家に置きっぱなしで、本当の初期の標本はその中にありますので、今手許のはあまり古いとはいえませんが、とりあえず

(1) 1936年5月10日岩湧山のスギガミキリ♂、♀。昭和11年（中学3年の時）。

1934、5年のがある筈ですがみあたりませんでした。

(2) 1901年の、当時駐日フランス公使 Dr. J. HARMAND が日光村近で採集された、ピドニアの3種類のタイア標本。これは Dr. BREUNING の特別のご好意によって頂いたもので、古い意味でも、学術上の貴重品としても、又採集者がアルマン公使であるという意味でも、私のコレクション中では最も重要な標本だと思います。（パリ国立自然科学博物館所蔵品）

(3) この項目は一寸むづかしいご注文かと思いますが、どいつのは珍品はいろいろあります

し、どれかといわれると困ります。珍断やエピソードのあるのは沢山あるので、いずれ「ねじれはね」に特別に頁をもらってずらりと書かせて頂きたいと思つている程ですが、それはもう十年もして老人組に編入されてきたら、ホッホッ思ひ出話式にかくことにしようかと愚考しています。

○ 宇沢 信義 氏 (兵庫県)

(1) ヒメガムシ (3.VII.1913) 大阪・梅田駅前 (中学2年)。

捕えた所は今の日鉄梅田駅前、銀杏並木の辺、当時アーク灯の街灯があり、それに駅北裏の沼池に生育した水棲昆虫が集まつてきたのを夕方行つて捕えたしものと見える。この日は私が虫を捕りはじめた翌々日だったと思う。

(2) a. 小蜂類 (主として螟蛾) 多数 (18.IV.1908) (Lingsi, Hainan) J. H. HOENE leg. (ドイツ人でドイツ銀行神戸支店長)。

1915年初めて交際、夫婦して敵を集めた愉快な人。大甲山からスズメガの新種を昆虫学雑誌(京都)に発表したことがある。日独戦争の始まるや、スパイの疑惑で日本を追放された時、遺品として頂戴した。

b. *Audrena* sp. (ハナバチ科) (25.IX.1918) 鹿島島, T. ESAKI leg.

当時、江崎君は七高へ新入学、海軍の新天地に勇躍して到着、オノ日の採集隊の1部、その後、どうしたわけか同君はさつぱり採集に終ず、専ら駅浪学生に転向?した。

(3) a. ハラアカトガリアナバチ (25.IX.1913) 大阪・梅田

今のコマ劇場の前辺り、当時阪急電車は国鉄の上を通り跨線橋の下は草原になつておつた所で成東線の汽車を冠ながら採集、これには一寸珍らしく先輩野平安玄雄氏におだてられて、その後45年前専ら蜂を熱心に捕つた最初の標本。

b. アメナミガムシ多数 (12.IV.1915) 大阪・十三堤

十三堤のとあるノバラに群集してゐるのを悉く採集網にノバイとつて帰り、野平・江崎至川の3先輩に各ノ合見送呈、その残りを今迄保管。その後この虫はさつぱり捕れぬ。北陸館の昆虫図鑑に江崎君が同種の記載のあとで、「日本では稀であるが時に夥しい数の個体の群がることがある」と当時のくやしさを告白してゐる、此の標本。

○ 中根 猛彦 氏 (京都市)

お問合せの件はすこぶる難題でありまして漸にお答えできないことは誠に遺憾であります。

(1) としあるとすれば中学2年(1934)のとき、とつた虫が一番古いことになります。ガメノゴムシあたりあるかしりません。これらは台紙にはつてあるときは頭が針の方向にむいています。

(2) 最も古いといふのは採集が最も古いのか、貰つたのが最も古いのか不明です。但しどちらにしても詳しいことは不明、外国の標本には19世紀のがあります。日本のはそんな

のはよいが、1910年代のはあるかもしれません。有名な採集場所は江崎先生のミツキリソウ、その他、どこまで入れたらよいか、考えても判らず書くとはかきじや足りません。(3) 最も重要な組は自分でつけた(珍)でしょう。もつとも珍は基準が判らないので不明、エピソードつき標本はいろいろある筈ですが、本人が覚にしてないので適当なものと思いつきません。

○ 沢田 高平氏 (大阪府)

(1) 大阪・上の芝, 10. VI. 1950, *Aleochara* sp. (ハネカクシ科) 位のものです。小指板の真中からミシン針で貫いたカナブンなど、小学生からの標本は戦争中に取られました。

(2) *Emilia* (ドイツ?) 3. IX. 1908, 採集者不明. *Sepedophilus pubescens* GRAVENH (ハネカクシ科) が古いところでしょう。神戸, 大甲山 (18. IX. 1929) で故 J. E. A. LEWIS 氏採集による *Oxypterus lewisi* CAMERON (ハネカクシ科), これには本科分類の大家・故 M. CAMERON 博士のラベルが付いています。

(3) 京都・鞍馬山 (26. IX. 1951) スクヌギの倒木の樹皮下から得た *Balsiodes punctipennis* SHARP (アリツカムシ科), これは生れて始めて採ったアリツカムシですが、宝石のように輝いていたことを覚えております。

○ 穂積 俊文氏 (愛媛県)

(1) 自分で採集した最も古い標本, 1939年8月25日, 名古屋市八事, オオキンカムシ。

(2) 所蔵中の最も古い標本, (1) に同じ。

(3) 標本全部に留置があります。特定のものはありません。最も珍しい標本は、獲いて言えば、ゾウラルマメゾウムシ, 1960年4月29日, 三重県湯の山。

○ 久松 定成氏 (松山市)

(1) アオオサムシ (浅川村近小仏峠, VI. 1939), 中学校1年の時採集。

(2) 日本産の最も古い標本は, ケシキスイ科の *Pocadites japonicus* (REITTER, 1877) の *Paratype*. この標本は HILLER が山口県萩に滞在中 (1872~1875) の採集品です。

(3) ミドリナカボソタマムシ (奄美大島新村付近, 23. VII. 1954)

採集した時, あまりの美しさと思わざる獲物にしはらくホウ然とし, 松山に帰るまで何度も包みを覗いてみたものです。

○ 馬場 金太郎氏 (新潟県)

(1) ジガバケ, ♀. (27. VIII. 1929) 越後・黒川産, 馬場採集, 当時中学校5年生。

(2) 上と同じ。

(3) ハサミコムシの一種 *Jabyx* sp.

この標本は、私が医師としての生涯を精神科医として地域社会の精神衛生に何か為すところあらんと決心し、新しく病院の発足に踏みきった時、工事中の地下から唯一出現した大形かつ珍希な *Jabyx* を、将来私自身研究して新種の記載をしたいと思つています。

○ 石田 裕 氏 (兵庫県)

あまりとりたてて申しあげることもないようです。いざ詳しく調べてみませんと分らない(そのもの)ものもありますが、とにかく一応お返事いたします。

(1) は年月日がはっきりしていませんが、大学3年生(1950)の頃に灯火に飛来した、*Scarites acutidens* ホソヒヨウタンゴムシ(京都市一乗寺)の標本が今のところ一番古いです。戦前に小生が採集いたしました標本(蝶)は、すべて戦火で烏有に帰しましたのでございませぬ。

(3) 最も愛着 — は、*Pterostichus* (*Paralioae*) *daisenicus* Ishide (Zz. VII. 1954, 徳政県大山)の *Holotype* でしょう。初めて記載しました標本で、しかも小生自身が採集しましたものです。珍しいものはかなりありますが、どれが一番というわけには参りません。

あまり珍断といえないかも知れませんが、1959年1月30日の午後11時30分に、神戸市榑水区の自宅で就寝中の枕もとで採集しました、*Pe. nimbaticus* Chaudoir があります。これは加古川以外でとれました唯一の例で、しかも初めての♂、丁度長さが出来て7日目と殊に記念すべき日でした。当日はわりと暖かかったのですが、真冬の深夜にたつた1ex. とつたのが珍鳥だとは全く驚きました。

○ 大林 一 夫 氏 (名古屋市)

(1) *Pidonia signata* MATSUSHITA (1933) の *Holotype* とはつた標本で、ラベルには Tokugo-toze, Shinano, 2-VIII. 1931, K. OHBAYASHI とあります。尾道中学4年生の時の採集品で、その地政松下真幸博士によつて記載された、*Pidonia*-group の標本が数頭残っています。(ガミキリムシ科)

(2) 年号では、*Ile Askold Mantechourie*, M. JANKOWSKI, 1880 というラベルのついた、*Macrolepture thoracica* CREUTZER の1♀。(この島は *Vladivostok* の沖にあり、ソ連領です)が一番古いようです。

また蝶でおなじみの FRUHSLORFER の採集品で、*Java occident, Sukabumi, 2000 1893, H. FRUHSLORFER* というラベルのついた *Nupseecha feicator* DALMAN (日本のヘリグロリゴガミキリの属のタイプ) があります。蝶の採集のかたわらガミキリまでもちゃんと採集して帰つてゐるのに感心させられます。(ガミキリムシ科)

(3) この頃に該当する標本はいろいろありますが、やはり自分で採かけた紅頭島の甲虫た

ちです。とくに、*Pachyrhynchus* spp. と *Dolichops similis* MIWA et MITONO は、前者が無数にいるのに後者はそれと混雑せず、約20日間の滞在で20頭ほどしか採集できなかったが、*Müllerian mimicry* の好適の例を体験できたことを今でも愉快に思っています。採集日は何れも1941年5月です。(ゾウムシ科、カミキリムシ科)

○ 江原 昭三氏 (北海道)

- (1) 1941年に札幌で採集したタテハケヨウ類標本(中学校1年生のとき)。
- (2) 1942年8月29日に、札幌市西郊の幌冠峠と円山との中間のあたりで、私が採集したキベリタテハは思出深いです。キベリタテハは定山溪に行くとき山とれますが、札幌では稀です。生れて始めて採ったキベリタテハです。鬼の首をもとつたようにして剪んで引きあげました。帰りの電車の中や、降りてから私の家へ歩く間にも、何處も三角旗を取り出してその存在を味つたものでした。北海道の蝶としては珍しいものではありませんが、中学2年生の私にとつては、それこそ大発見だったのです。

○ 小島 圭三氏 (高知県)

- (1) (2) 戦災で古い標本は全部焼失してしまいました。しかつて「現在所蔵のものに限る」の範囲内では何ともありません。
- (3) 戦災を受けて以来、標本に愛着はもてません。また持たないようになっています。いわゆる珍種が2頭以上採れたときは、なるべく1頭を人にさしあげることにしています。

○ 野 淵 輝 氏 (東京都)

- (1) セジロカミキリ 京耶下鴨神社 中学1年の夏休み ——。(今ここにありませんが、京耶の家においてあります)。

(2) *Languria trifasciata* SAY, Phila. Pa. 6. X. 1893, (コメツキモドキ科)

- (3) *Tritome towadensis* CHŪJŌ, (オオキノコムシ科) 17. exs. 京耶。黄船, 9. IV. 1953, 前年十和田湖でこれを3頭とりましたが、黄船で約20頭採集し、生きのまま中根岩生の確認を得ました。

Cryphalini の *gen. n.* (キアトムシ科) - 高尾山のライカガズヲから採集、*Cryphalus* と *Xyloterus* が近いのではないかと考えてから2年目にこの虫を採り、その日すぐ研究室に帰りノス時近くまでかかつて解剖しました。

○ 宮 武 睦 夫 氏 (松山市)

アンケートの答えになるかどうか、実は私の昆虫採集は、多くの人と同じように中学校1年のときから始め、蝶を歩み始めておりましたが戦災でむくし、戦後愛媛県鳳来で石原

先生の下で学ぶようになってからは、採集した標本はすべて研究室の標本充実のため提出して、*private* な標本は殆ど所持しておりません。従つて、“現在所蔵のものに限る”という点では資格がありません。もし私の採集又は入手したもので現在当研究室に保存されているものでよければ、又のようなものです。

- (1) マイマイカブリ，昭和21年3月4日（1946），松山市外横谷，朽木の中から。
- (2) 外国から送つてもらったものには，1890年代のものもありました。その中には，外人が日本へ採集したものもありましたが，“白くつき”というほどのものはありません。
- (3) どんな種類の昆虫でも，はじめて採つたときにはそれぞれうれしかった想出と覚書がありますが，ミヤマナカボソタマムシを松山市外血ヶ嶺で1949年8月30日に採集したときの情景とうれしさは今でも忘れません。夏の終りを大した収穫もなく下山の途中，西日をうけたクヌギ？の小幹にキラッと光るものをを見つけ，同行者のネットを捕り落したときの用心に受けももらつて，駒をおどらせながら採集しました。

○ 藤村 俊彦 氏（出雲市）

(1) 1941年8月（小学校4年生），ナナホシテントウムシ，福部梁会津若松市外，東山温泉産。

当時体が弱く，夏休みの林間学校に強制的に出され，毎日温泉に連れてゆかれました。その時，父からはじめて昆虫採集用具セットを買つてもらつて虫とりをはじめたのが，ゆみつきとなりまして。ケヨウマシオンホはもう霧散しましたが，誠に包んだテントウムシは三角峠の中から袋で発見し，小生の記念品として大切にしています。（記念品，私にとつては正に国宝級おもしろい品です）。小学生用の道具はチヤチヤなものですごくかわれましたが，三角峠だけは不思議と立派で，若干ハンドを補修して今もお使用しています。現在の品より良く，まだこれに類した品は見たことがありません。

(2) 今，昆虫生理学バリエリの石井象二郎博士が北支那で採集されたスガラベ。1940年8月，当時の博士は本当の虫好きで，年中網を手から放さねはかつた由，衛生兵だったそうで，部隊がヒ賊討伐から帰つてくるに必ず不在なので，“ムシ！”と大声になると，珠のかけから白い網を手で一生命走つて出てこられたそうです。（これは当時，博士の叔父だった人の話です）。

(3) 1954年8月7日，クビアカヒラタカミキリ，北海道十勝国虻田にて。

丁度大雪山から帯広へ帰る途中，小南煙る虻田の町で，バスが15分程停車しました。南拓史を物語るような美しい町は月おくれの七夕——，竹のない北海道なので，柳の木で七夕かざりを道のそばに立ててありました。バスから降りて雨の中をブラブラ散歩し，町はぐれの農家の軒端にあったミズナラの薪からムクムクと這い出してきたのが，このカミキリです。珍品であったことと，その後北大で，これがヨーロッパ産の *Phymatodes testaceus* 人。であり，松村博士の命名されたのがこの種に他ならないと知つた時は，一そううれしく思いました。今でも小南に煙る南拓村の柳の七夕かざりが忘れられません。

○ 佐藤 正孝氏 (松山市)

(1) ナベアゲムシ, *Aphelochirus vittatus* MATSUMURA.

1951年8月, 岐阜県瑞浪 (Mizunami), 佐藤採集, 採集日不明で思い出せません。当時私は中学2年生でした。

(2) カノシマチビゲンゴロウ *Oreodytes kanoi* KAMIYA,

4 exs. Kamikochi, Nagano Pref. 19. VI. 1939, E. SUENSON leg.

採集日が古くもあり, 採集者が有名な人だし, 珍品ともありといった標本で, 日本産のを逆輸入した標本です。日本語以外でしたら, REITTER や VAN DYKE の採集標本もありますが —。

(3) *Hydraena (Holcohydraena) miyatakei* M. SATO (ダルマガムシ科)。

これは私自身で記載したものです。この採集日 — 1959年3月25日 — というのは私が昆虫学と専攻する決意を新たにして名古屋の大学を中退し, 松山の愛媛大学を受験に来た際の試験の直後採集に行つて得たものですが, これこそ私の新種記載の最初の論文に当たつた記念すべき標本です。愛媛大学農学部昆虫学教室に所蔵され, 一部は私も所蔵しております。(いふれと Paratype)

Glyptotendipes shirozui NAKANE (ハナミ科)

2 exs. Mt. Taterasan, Tsushima Is., 10. VII. 1960, M. SATO leg.

最近採集された品ですが, 私が1958年に黒尊へ採集に行つたとき, 2, 3度見つけたのにどうしても採れなかつたのが残念でして, 一度自分の手さと思つていましたところ, それから今年4年ぶりにどうも採ることができたものです。

○ 黒沢 良彦氏 (東京都)

(1) 山形県米沢市在住の折採集した甲虫・蝶等を, 当国立科学博物館に寄贈(当時出田一氏が担当されていた)したものが, 現在でも残っている。私が所持していたものは皆散逸し, タマムシ科以外残っていない。米沢在住の折のは1938~1943年の採集品で, 主として私の旧制高校時代のものである。

(2) 外国から送られてきたタマムシの標本には, 1800年代のデータがついたものも稀ではないが, どれが最も古いか調べたことはない。採集者又は蒐集者には, REITTER, LEWIS 等の名のついたものもある。

(3) タマムシの標本であれば何でも一様に愛着を持つており, 今では博物館の標本にも同様の愛着を持つて甲虫のみならず, 昆虫全般の標本の整理と増加に努力している。この点, 諸氏のよき理解と援助を期待している。

「エピソードのある標本」は残っているが, 新潟県中津川溪谷の稲場登山道で休憩中, 馬場金太郎博士の死の下から這い出した, オオアトマルナガゴミムシ *Pterostichus*

macrogenys BATES (新潟県新記録!) くらいなものである。

○ 河野 洋氏 (大阪府)

(1) 戦災のため現存なし。

(2) 日本産では古い標本の符合せがないが、外国産(ヨーロッパ)リマムシ *Chalcop-lora virginensis* DORURY が 1916 年で、最も古い標本です。

(3) 1956 年7月16日、子供連れで私市へ虫採りに行ったとき、一番上の子供が車中で大便中、あわてて下から背中に這い上つてきたナナフシムシの♀ノ頭。今でも箱を出すたびに、私も子供も当時を思い出して、愉快になる標本の1つ。

○ 竹村 芳夫氏 (鹿児島市)

(1) モンキアゲハ、1932 年5月15日、鹿児島市内、採集者、竹村(当時中学3年)

この年から採集をはじめました。他に標本も、この年のもめがありますけれども、甲虫その他は戦災で焼失しました。

(2) 最も古いものは、(1) と同一の標本にあります。

(3) 特にこれといってありませんが、1956 年6月15日霧島山中の伐材から得たフタグロヤツボシカミキリには愛着を持っています。伐材木でカミキリほど多数採った初の体験であり、金ピカの美しい、そして現在当県産唯一の標本である本種は、強く印象に残っています。

個体ではなく種類としては、はじめに私の名前が学名につけられた、スルスミゴガネムシなども思い出多い虫です。

戦災で蝶の一部を残して、すべて灰燼に帰しましたし、又あまり標本に執着せず、珍稀なものも割合平気な手はなしましたので、特にこの欄で申しあげるような資料の少ないことを遺憾に思います。

○ 大倉 正文氏 (神戸市)

(1) 私の虫症は中学卒業後のため標本も比較的新しく、1935 年8月4日、兵庫県塩場の千丈岩の下で採集した *Brachinus stenoderus* BATES ユホソクビゴミムシです。この標本には私の Coll. No. 1. がついています。

(2) 小生かけ出しの頃、確かに昆虫界の交換欄に「カミキリムシを望む、松下真幸」とあるのを見て、早速手紙を出して交換してもらったゴミムシを、矢野由雄氏に *Harpalus discrepans* MORAWITZ ハゴチゴモクムシと同定してもらい珍重していたところ、精査の結果 *Ophonus sinicus* HOPE ウスアカゴモクムシでがっかりした経験があります。あとで有名なカミキリムシの大家、松下真幸博士であることを知りましたが、最近の若い人と違い郵便の返事をいただいたと記憶しています。データは北海道伊達町産 1935 年9月10日となっています。

(3) 自分自身で採集した歩行虫類はすべて愛着を保持しています。強いていえば、大阪市旭区城北公園うらの淀川原で1937年9月12日に採集した *Lachnoderma asperum* BATES アリスアトキリゴミムシもその一つです。

○ 後 藤 光 男 氏 (大阪府)

アンケートを受けとつて、さて回答を本標本箱をあちらこちら探していますが、早スの年余も虫と付合っていることに気がつき今更むから驚きました。標本の目付を見ていますヒ一生懸命であつた時代と、サホつていた時代にはつきり色分けされます。永年虫をやつている割に古い標本がありませんのは、次々美しく整脚した標本に更新することもあります。大部分は召上げられたものが多かつたからです。

(1) オオセンタゴガネ、昭和10年9月6日・箕面高山道・牛糞にて、標本は現存しません。裏付文帳があります。これ以前にも採集に行つていますが、本格的なものではなく単なる子供の虫あつめの時代でした。

(2) 1934~7年頃が沢山ありますのでこの頃のものが古いものでしょう。

(3) どの標本にも愛着を感じていますが、その中にも強弱があります。しいていえば攻方取巻のゲンゴロモドキ、兵隊で朝鮮全羅南道大三面の山中に於て、露天便所に生ると同時に飛んできたノゴギリタマオシゴガネ、那敵本御への廻ノ回の連絡で路傍から採つたムラサキハンミヨウ・チヨウセンカブリモドキその他で、終戦後アメリカの軍政下になり、さびしい荷物検査の目をかすめて持ち帰つた標本だけに、当時の思い出とありありと思ひ起されてくれます。又載いた標本の中にはフウゲンビル島で銃眼下に採つたというメダカハンミヨウや、人間の腐死死体で採れたという台湾のホシモモブトシテギの故事来正は別として愛着の強い方でしょう。採集にともなう珍談、奇談、エピソードも各種取揃えていますが、今は念板の時代ではないようです。創立30周年記念号でも編輯することにすれば、ブケマケですが。

おわりに

大会に間に合わすべく急な計画で作りあげました。アンケートも今回に限らず順次到着がありました分から載せてゆきます。アンケートを差上げなかつた方々で「ワシのはこの様だ」とお思召の方は「ハガキ」でお寄せ下さい。「ぬじればぬ」の次号は12月中旬に、「創立30周年記念号」を予定しています。敗戦直後の混乱時代に生れをあげたこの年の思い出や、食糧難の時代にしかも買出列車をオノハギめ出る山中へ採集に行かれた方々も多々あると思いますので、「思い出の数々」を寄せて下さい。12月末の締切りで発行したいと思ひます。(後藤)